平成29年度　学校評価総括表　　伊丹市立伊丹幼稚園

教育目標		心豊かでいきいきと生活する子ども						
重点目標		1　一人一人に応じた環境を構成し、個性を生かす保育をすすめる。　2　友だちと共に伸びようとする仲間づくりを進める。 3　健やかな心と体づくりを進める。　4　家庭・地域社会との連携を図り、地域に開かれた幼稚園づくりに取り組む。						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
確かな学力の向上	自ら学び自ら考える力の育成	・自分の思いを伝え合う子どもの育成に努める。	・学級経営目標を年度当初に明確に設定し、思いを伝えたり、伝え合ったりする力の育成に取り組む。 ・公開保育や実践事例研究を行い、自分の思いを伝え合う力の育成を意図した保育を展開する。	・園での教育活動により、伝え合う力の育成ができたという評価が80％以上になる。 ・思いを伝え合う姿についての実践事例を短期指導計画の中に組み込み、日々の教師の援助について振り返り、検証していく。	A	・「人の話を聞く力や自分の思いや考えを言う力がついてきた」という項目についての評価が97％であった。教育内容についての理解が深まっている。 ・今後も実践事例を出し合い、思いを伝え合う力の育成のために意図的な教師の援助を実践していく。	・職員会議や研修会などを通してより教師の意図性のある教育が提供できるようにする。 ・園内研究会の回数を増やし、教師間で保育を見合い、資質向上を図っていく。	・子どもが行動を起こした時に、的確に援助、対応することで伝えたいという気持ちが伸びるのではないか。来年度も引き続き伝えたい思いを高める保育を期待する。
	直接体験を通して子どもが心を動かす保育の推進	・園の特色でもあるビオトープなどの園庭の自然物を取り入れた保育を工夫する。	・月1回ビオトープ研修会を実施する。 ・昆虫館の学芸員を招聘し、様々な虫に興味をもてるような機会をつくり、保育室で生き物を飼育する機会を増やす。 ・畑や花壇で野菜や花の栽培を行い、季節を感じられる機会をもつ。	・ビオトープ研修会を月1回実施する。 ・自然を取り入れた教育についての評価を90％以上にする。	A	・月1回のビオトープ研修会を継続して行うことができた。自然環境への興味を示す子どもがアンケート結果では100％であった。 ・虫取りの園外保育に昆虫館の学芸員を招聘し、子どもたちが様々な虫とふれあい、心を動かす体験ができた。	・園の特色であるビオトープを活用した教育活動を引き続き展開していく。 ・今後も五感を通した直接体験ができるような環境作りを進めていく。	・保育室の中も四季の移り変わりが感じられるように工夫されている。 ・直接体験で心が動くと「このことを伝えたい」という思いにつながるのではないか。
豊かな心・健やかな体の育成	子どもの健やかな体づくり	・体力向上に視点をあてた保健活動を充実させていく。	・運動遊び専門の講師を招聘し、体力向上に努める。 ・保健の話や研修会の実施等を通して啓発を進めていく。	・保健の話を月1回実施する。 ・保健の話を基に、健康カレンダーを随時配布し、健やかな体づくりを進める。 ・外部からの専門の講師を年7回程度招聘し、楽しみながら体を動かす機会をつくる。	A	・アンケート結果では98％達成できた。 ・保育の中での運動遊びや運動遊びを取り入れた健康カレンダー、講師を招聘した運動遊びに継続して取り組む。	・講師を招聘した運動遊びの活動を年間で計画していく。	・子ども達も講師に教わりながら運動することを楽しみにしているので、継続してほしい。
	特別支援教育の推進・充実	・個別指導計画を作成し、実践、評価を進めていく。 ・特別支援に視点をあてた保護者懇談会を実施し、インクルーシブ教育を進めていく。	・個別指導計画を基に保育を進め、記録や話し合いを通して全職員で支援の方向性を共通理解する。 ・特別支援教育に視点を当てた懇談会を年6回実施し、保護者啓発を進めていく。	・個別の支援を必要とする子どもについての情報交換を月2回実施し、個別指導計画に基づいた指導を実施する。 ・特別支援教育に視点を当てた懇談会を年6回実施し、保護者啓発を行う。	A	・個別の支援を必要とする子どもの情報交換をすることで全職員で共通理解を図り保育に努めることができた。今後も教師間での連携を大切にしていく。 ・卒園児の保護者との懇談会を実施し、安心して小学校へと就学できるように連携を深めることができた。	・個別の支援を必要とする子どもについての情報交換を月2回実施し専門的な教育活動が実施できるようにする。 ・特別支援の懇談会については保護者啓発も考え、内容や時間を検討していく。	・子どもへの支援の方向性を教師同士が相談し、共通理解して関わっていたので、今後も実践していってほしい。 ・その時期にタイムリーなテーマで懇談会の内容を考えていくことで、保護者の参加も多く、啓発につながっているように感じた。
	人権教育の推進・充実	・保護者と連携して、自尊感情の育成に取り組む。	・人権についての意識を高める機会をつくり、保護者・幼児に啓発を行う。 ・人権教材「ほほえみ」「いたみっこおやくそくカード」などを必要に応じて活用し、自尊感情の育成に努める。	・人権教育に視点を当てた学級懇談会を年1回行う。 ・自尊感情の育成について、保育の中で工夫していることの情報交換を積極的に行う。	B	・自尊感情についてのアンケートにおいては96％の評価であった。 ・LGBT等を尊重した教育活動の実践に取り組む。また、子どもの自尊感情を高める活動を意識して実施していく。	・日々の教育活動の中で教師の対応について、職員会議の中で必ず振り返り、人権意識を高める努力をする。 ・人権を視点とした学級懇談を年1回実施する。	・子どもの自尊感情の育成には、まず保護者自身が自尊感情を持たなければ難しいのではないかと思う。誕生会の後の園長と保護者の懇談会であるバースデートークや学級懇談会などで、保護者が安心感や自信を持てるような話を引き続きしていくのがいいのでないかと考える。
教師の教育力の向上	教職員研修の充実・人材の育成	・質の高い教育活動が行えるように個々の教師の力を育成する。	・質の高い教育活動に向けて、幼児理解を基盤とした保育のあり方についての話し合ったり、園内研究、共同研究を進めたりしていく。 ・教師それぞれが自己目標を設定し、個々の課題に向かって研修会に参加するなどして、専門知識を深めながら資質向上に努める。	・保育計画・幼児理解についての話し合いを週1回実施する。 ・園内研究会を学期に1回以上、共同研究園との交流を学期に1回以上実施する。	B	・幼児理解を基盤とした保育の大切さを感じ、保育実践に努めることができた。 ・園全体の教育の向上について意識をもち、教師同士がかかわり合って育とうとする意識をもつようにする。	・園内での研修の充実を図り、学期に1回の園内研修会を実施し、教職員の資質向上に努める。 ・共同研究会に積極的に参加し、教育内容等について学び合うようにする。	・教師同士も教育に向かうスキルを高めていく為に、それぞれの長所や得意なことなどに目を向けて、さらに伸ばし合ってほしい。
開かれた・信頼される園づくり	安全管理	・危機管理体制の整備を進める。 ・安全指導を進めていく。	・危機管理体制として、避難訓練や不審者対応・交通マナーを身につけるなどの指導を定期的に実施していく。 ・降園指導や交通安全教室などを実施し、意識を高めていく。 ・流行性疾病などの情報を伝え、早期予防を啓発していく。	・避難訓練を年3回、防災訓練を年1回、交通指導などの安全指導を月1回は実施する。 ・流行性疾患について、予防ができるように随時保護者に直接呼びかけをする。 ・園の教育や情報で安全意識が高まった評価が80％以上になる。	A	・警察や関係機関と連携し、防犯訓練や交通安全教室を実施したことで、防犯意識が高まったり、交通ルール・マナーを身につけたりすることができた。 ・流行性疾患については季節ごとに「ほけんだより」を通して保護者に啓発することができた。 ・今後は訓練を通して緊急時の対応について職員間で共通理解を図り、事件・事故防止に努める。	・訓練等を通して、安全管理についての意識を今後も高めていく。緊急時の行動が的確にできるように訓練を実施していくようにする。 ・職員、子ども、保護者ともに交通安全に対しての意識を高めていく。 ・日常的な安全点検を行い怪我や事故を未然に防ぐ。	・交通安全教室は親子で参加することで、家庭での話がしやすいし、保護者の意識を高めることにつながるので継続してほしい。 ・健康で安全に過ごす為に、自己ケアをしたり、マナーやルールを身につけることは、すぐにできることではないので、根気強く継続していくべきである。
	学校園情報の積極的な発信	・保護者への情報発信を工夫し、園教育への理解を図る。	・保育の内容を保護者や地域に発信していく機会をつくり、教育に対する理解を進めていく。 ・ビデオ等を活用した懇談会や幼稚園だよりやクラスだよりなどを定期的に発信していく。	・園での教育内容を視覚を通して伝える保育を語ろう会を年5回実施する。 ・幼稚園の教育内容や家庭教育の啓発につながるたよりを月1回発行する。・HPの更新を月10回実施する。	B	・学校園情報の積極的な発信について93％だったので、今後もさらに取り組んでいく。 ・ビデオ等を活用した懇談会を年3回以上実施し、教育活動についてのアピールを進めていく。	・園の教育内容を理解してもらい、保護者と連携して教育活動が推進できるように、情報発信に引き続き取り組んでいく。	・これからも、保育の内容や意図を保護者に伝わるように発信し、引き続き、園と保護者の良い信頼関係が築けるようにしてほしい。
	保護者の関係の構築	・園内行事を通して子どもへのかかわりの機会を設定し、子育ての楽しさを共感し連携を深めていく。	・PTAが参加しているサークル活動の組織を活用し、園や子どもへのかかわりの機会を意図的につくっていく。 ・おやじの会を年4回に実施する。 ・誕生会の出し物を誕生児の保護者が行うようにし、保護者同士のかかわりが深まる機会をつくる。	・誕生会の出し物を保護者が毎月実施し、子どもへかかわる機会をつくる。 ・おやじの会を年4回実施したり、随時サークル活動を実施し、保護者間の連携が深まるようにする。	A	・保護者同士の関係は良好で評価も高かった。 ・子育て推進事業としての「おやじの会」についての賛同が98％であったので、今後も継続して実施していくようにする。	・保護者のサークルが活動する場の工夫（未就園児の会、参観日等）をすすめることとおやじの会（年6回）等の活動を実施し、保護者同士の関係づくりに今後も取り組む。	・それぞれの行事について、何の為の行事で、どんな目的で保護者が参加し、何をするのか、園とPTA役員とで事前に話し合ってから進めることで、よりスムーズに保護者が参加できるのではないかと思う。今後も幼稚園だよりやクラスだより、お知らせタイムなどを充実していってほしい。
	子育て支援	・3歳児プレ保育として「うさぎ組」を月1回実施し、幼稚園教育への理解を広げる。 ・地域へ子育て支援に関する情報の発信を行う。	・なかよしいたみっこ『うさぎぐみ』、園庭開放、みんなのひろばなどの機会を生かして園の教育を伝える。 ・バースデートークを行い、どの保護者も日々の子育てを楽しめるようにする。	・なかよしいたみっこ『うさぎぐみ』を年10回実施する。 ・みんなのひろばやむっくむっくルームと随時連携し、園の教育を知ってもらう機会をつくり、子育て支援の評価が80％以上になる。	A	・3歳児対象の『うさぎぐみ』の活動が定着し、地域への発信ができた。 ・子育て支援についての評価も100％であった。 ・さらに内容を充実し、園が子育て支援のセンター的役割を担うことができるように取り組む。	・来年度に向けてプレ保育等の内容を考え、さらに充実した子育て支援を行えるようにしていく。 ・バースデートーク（年12回）の内容を工夫し、子育て支援をさらに進めていく。	・入園前の子ども達の様子を捉えることができたのではないか。また、入園前に子ども同士が関わって遊べたり、保護者同士が関係を築けたりして、入園後の安心感につながったのではないか。来年度につながる、いい取り組みであったように感じる。
業務組織改善運営		・園務分掌を責任をもって遂行し、業務改善への意識をもつ。	・園務日程を立て、計画的に職員会議や作業に取り組む。 ・園務分掌上の仕事に各職員が責任をもって取り組む。 ・ノー残業デーについての意識を高める。	・効率のよい業務についての意識を高め、園務分掌についてそれぞれが責任感をもって、園運営にかかわっていく。 ・月1回作業日を設定し、全職員で効率よく作業に取り組む。 ・職員会議を時間を決めて行う。	B	・効率のよい職員会議の実施を進め、担当としての意識を高めていく必要があった。 ・職員の年休取得率をさらに上げ、快適な職場環境をつくり、業務改善を進めていく。	・職員が園務分掌での役割を自覚し、率先して活動に取り組むように組織改善を進めていく。 ・行事の精選などを進め、教育活動がより充実するように内容を検討する。	・来年度からは、プレ保育や預かり保育が始まるので、より行事の精選を進め、園運営について見直していく必要があるのではないか。

学校関係者評価総括
保護者と幼稚園の良好な関係を築くことができている。新しい取り組みについても伊丹幼稚園の活動として定着し、充実してきている。

次年度に向けた重点的な改善点
来年度は新幼稚園教育要領の実施の年であること、またプレ保育や預かり保育を実施していくので、教育内容を見直していく必要がある。

自己評価の基準　**A**：目標を上回った　**B**：目標どおりに達成できた　**C**：目標をやや下回った　**D**：目標を大きく下回った